

表1 (1) Step1調査実施内容と調査地点、試料採取地点、分析検体数

調査項目		調査対象物質	調査対象 30m格子	調査地点	試料採取深度	分析対象物質	分析検体数
地質及び地下水調査		砒素全含有量	—	9地点	オールコア採取0~10mより、埋土（浚渫土）、自然地盤の粘性土から採取	砒素全含有量	3検体
		—	—		油臭が確認された深度	油臭、油膜、TPH	4検体
盛土対象 調査	土壌ガス調査	第一種特定有害物質、その他VOCs	盛土が存在する 30m格子	30m格子ごとに 1地点（100地点）	0.8~1m	第一種特定有害物質、その他VOCs	89検体（土壌ガス） 11検体（宙水）
	表層土壌調査	油分			深度0.15m、0.5m	油臭、油膜、TPH	200検体 （100×2）
		第二種特定有害物質 第三種特定有害物質		30m格子ごとに 5地点（468地点） ※埋土対象調査の 89地点と重複含む	深度0~0.05mと0.05~0.5m（均等混合）	第二種特定有害物質（鉛、砒素を除く）、第三種特定有害物質	100検体 （混合試料）
	追加土壌ガス調査	ベンゼン	土壌ガス調査でベンゼン検出の 30m格子	ベンゼン検出の30m格子内、未採取の地点（34地点）	0.8~1m	ベンゼン	32検体（土壌ガス） 2検体（宙水）
	土壌ガス検出区画の深度別土壌調査	ベンゼン	追加土壌ガス調査実施の30m格子	土壌ガス・追加土壌ガス調査のベンゼン検出の地点（14地点）	表層、0.5m、1.0m、盛土下端までの間の1m毎の深度、盛土下端深度	ベンゼン	47検体
	深度別 土壌調査	第一種特定有害物質 その他VOCs	盛土厚1m以上の30m格子	30m格子内の盛土が最厚の地点（75地点）	表層、0.5m、1.0m、盛土下端までの間の1m毎の深度	第一種特定有害物質 その他VOCs	237検体
第二種特定有害物質、 第三種特定有害物質		30m格子ごと盛土厚1m以上の地点（225地点）		表層、0.5m、1.0m、盛土下端までの間の1m毎の深度	第二種特定有害物質、 第三種特定有害物質	75検体 （混合試料）	
油分		30m格子ごとに1地点、コア試料で強い油臭を感じた地点（102地点）		深度1m、盛土下端までの間の0.5m毎の深度、盛土下端深度、油臭を感じた深度	油臭、油膜、TPH	163検体	

表1 (2) Step1調査実施内容と調査地点、試料採取地点、分析検体数

調査項目	調査対象物質	調査対象 30m格子	調査地点	試料採取深度	分析対象物質	分析検体数	
埋土対象 調査	深度別土壌 調査	1つおきの 30m格子	30m格子ごとに 1地点 (29地点)	深度1m、2m、3m、4m、5m、6m、 7m、8m、9m、10m ※盛土が存在しないところは深 度0~0.05mを追加	第一種特定有害物 質、その他VOCs	303検体 (29×10+13)	
					ベンゼン	303検体 (29×10+13)	
			油分	30m格子ごとに1地 点、コア試料で強い 油臭を感じた地点 (54地点)	深度1m、2m、3m、4m、5m、6m、 7m、8m、9m、10m ※盛土が存在しないところは深 度0.15mを追加、コア試料で強 い油臭を感じた深度を追加	油臭、油膜、TPH	323検体 (29×10+13+20 検体)
			ベンゼン(地下 水面付近のみ)	30m格子ごとに 1地点 (29地点)	地下水面付近	ベンゼン	145検体 ※地下水面付近以 外と深度重複が13 あり
			第二種・第三種 特定有害物質	30m格子ごとに 5地点 (145地点)	深度1m、2m、3m、4m、5m、6m、 7m、8m、9m、10m ※盛土が存在しないところは深 度0~0.05mと0.05~0.5m (均 等混合) を追加	第二種特定有害物 質、第三種特定有 害物質	364検体 (地層毎、深度毎混 合試料)
地下水 汚染状況 調査	地下水 汚染状況 調査	-	30m格子ごとに 1地点 (29地点)	-	-	-	
				帯水層中央	第一種特定有害物 質、第二種特定有 害物質、第三種特 定有害物質、その 他VOCs	29検体	
				地下水面付近	油臭、油膜、TPH	29検体	

※：「その他VOCs」は、クロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレンのことをいう。

別紙2

表2 Step1調査結果概要（地点数別、基準超過・検出状況）

		土壤溶出量														
		ベンゼン					鉛					砒素				
		調査 地点数 (地点)	超過 地点数 (地点)	超過率 (%)	最大 濃度 (mg/L)	最大濃度 の超過 倍率	調査 地点数 (地点)	超過 地点数 (地点)	超過率 (%)	最大 濃度 (mg/L)	最大濃度 の超過 倍率	調査 地点数 (地点)	超過 地点数 (地点)	超過率 (%)	最大 濃度 (mg/L)	最大濃度 の超過 倍率
盛土	土壤ガス(宙水)調査 ～深度別土壤調査	42	1	0.5	0.012	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	表層土壤調査	—	—	—	—	—	100	0	0.0	0.005	基準適合	100	68	68.0	0.054	5.4
	深度別土壤調査 (68は分析中)	75	1	—	0.012	1.2	75	分析中	—	—	—	75	分析中	—	—	—
埋土	深度別土壤調査	36	6	16.7	0.41	4.1	29	12	41.4	0.027	2.7	33	31	93.9	0.097	9.7
自然地盤	深度別土壤調査	36	0	0.0	0.0052	基準適合	29	15	51.7	0.053	5.3	32	32	100.0	0.15	15
地下水	地下水汚染調査	29	2	6.9	0.11	1.1	29	0	0.0	0.004	基準適合	29	8	27.6	0.041	4.1

		土壤溶出量										土壤含有量				
		ふっ素					ほう素					鉛				
		調査 地点数 (地点)	超過 地点数 (地点)	超過率 (%)	最大 濃度 (mg/L)	最大濃度 の超過 倍率	調査 地点数 (地点)	超過 地点数 (地点)	超過率 (%)	最大 濃度 (mg/L)	最大濃度 の超過 倍率	調査 地点数 (地点)	超過 地点数 (地点)	超過率 (%)	最大 濃度 (mg/L)	最大濃度 の超過 倍率
盛土	土壤ガス(宙水)調査 ～深度別土壤調査	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	表層土壤調査	100	5	0.1	2.1	2.6	100	0.0	0.0	0.30	基準適合	100	0	0.0	85	基準適合
	深度別土壤調査	75	分析中	—	—	—	75	分析中	—	—	—	75	分析中	—	—	—
埋土	深度別土壤調査	29	26	89.7	5.7	7.1	29	0.0	0.0	0.63	基準適合	29	0	0.0	98	基準適合
自然地盤	深度別土壤調査	29	19	65.5	2.4	3.0	29	0.0	0.0	0.93	基準適合	29	1	3.4	220	1.5
地下水	地下水汚染調査	29	25	86.2	3.9	4.9	29	7.0	24.1	3.4	3.4	—	—	—	—	—

		油分														
		油臭					油膜					TPH				
		調査 地点数 (地点)	超過 地点数 (地点)	超過率 (%)	最大 濃度 (mg/L)	最大濃度 の超過 倍率	調査 地点数 (地点)	超過 地点数 (地点)	超過率 (%)	最大 濃度 (mg/L)	最大濃度 の超過 倍率	調査 地点数 (地点)	超過 地点数 (地点)	超過率 (%)	最大 濃度 (mg/L)	最大濃度 の超過 倍率
盛土	表層土壤調査	100	30	30.0	判定値3	—	100	16	16.0	判定値2	—	100	52	52.0	3300	—
	深度別土壤調査	36	16	44.4	判定値4	—	36	9	25.0	判定値2	—	36	13	36.1	6700	—
埋土	深度別土壤調査	29	0	0.0	—	—	29	0	0.0	—	—	29	0	0.0	—	—
地下水	地下水汚染調査	29	2	6.9	判定値2	—	29	0	0.0	—	—	29	0	0.0	—	—

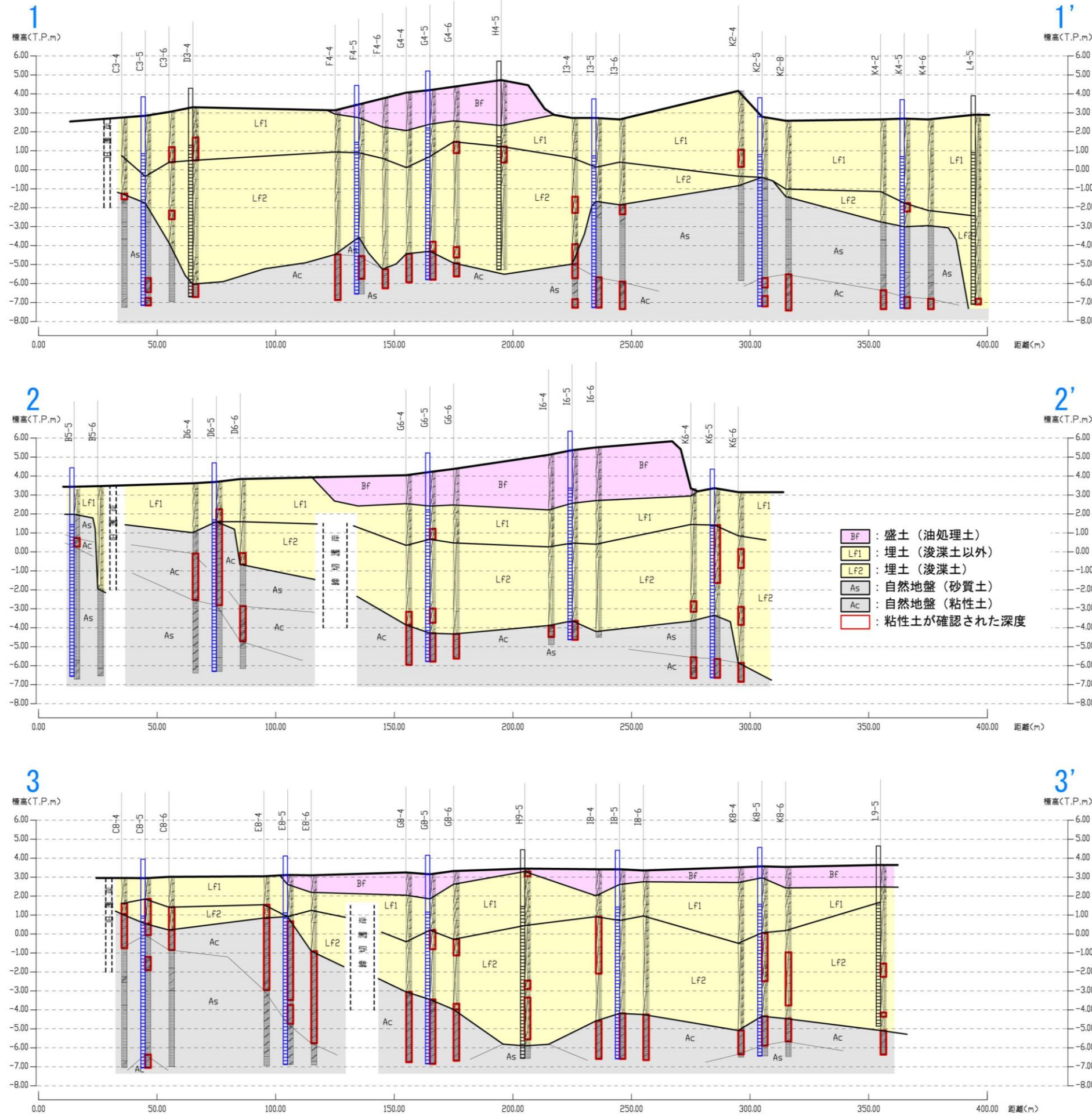
表3 Step1調査結果概要（検体数別・基準超過・検出状況）

		土壤溶出量														
		ベンゼン					鉛					砒素				
		分析 検体数 (検体)	超過 検体数 (検体)	超過率 (%)	最大 濃度 (mg/L)	最大濃度 の超過 倍率	分析 検体数 (検体)	超過 検体数 (検体)	超過率 (%)	最大 濃度 (mg/L)	最大濃度 の超過 倍率	分析 検体数 (検体)	超過 検体数 (検体)	超過率 (%)	最大 濃度 (mg/L)	最大濃度 の超過 倍率
盛土	土壤ガス(宙水)調査 ～深度別土壤調査	122	1	0.8	0.012	1.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	表層土壤調査	—	—	—	—	—	100	0	0.0	0.005	基準適合	100	68	68.0	0.054	5.4
	深度別土壤調査	237	分析中(1)	—	0.012	1.2	75	分析中(0)	—	—	—	75	分析中(9)	—	—	—
埋土	深度別土壤調査	399	11	2.8	0.41	41	182	17	9.3	0.027	2.7	201	132	65.7	0.097	9.7
自然地盤	深度別土壤調査	270	0	0.0	0.0052	基準適合	167	32	19.2	0.053	5.3	189	146	77.2	0.15	15
地下水	地下水汚染調査	29	2	6.9	0.11	11	29	0	0.0	0.004	基準適合	29	8	27.6	0.041	4.1

		土壤溶出量										土壤含有量				
		ふっ素					ほう素					鉛				
		分析 検体数 (検体)	超過 検体数 (検体)	超過率 (%)	最大 濃度 (mg/L)	最大濃度 の超過 倍率	分析 検体数 (検体)	超過 検体数 (検体)	超過率 (%)	最大 濃度 (mg/L)	最大濃度 の超過 倍率	分析 検体数 (検体)	超過 検体数 (検体)	超過率 (%)	最大 濃度 (mg/kg)	最大濃度 の超過 倍率
盛土	土壤ガス(宙水)調査 ～深度別土壤調査	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	表層土壤調査	100	5	0.1	2.1	2.6	100	0.0	0.0	0.30	基準適合	100	0	0.0	85	基準適合
	深度別土壤調査	75	分析中(0)	—	—	—	75	分析中(0)	—	—	—	75	分析中(0)	—	—	—
埋土	深度別土壤調査	180	84	46.7	5.7	7.1	180	0.0	0.0	0.63	基準適合	182	0	0.0	98	基準適合
自然地盤	深度別土壤調査	167	29	17.4	2.4	3.0	167	0.0	0.0	0.93	基準適合	167	1	0.6	220	1.5
地下水	地下水汚染調査	29	25	86.2	3.9	4.9	29	7.0	24.1	3.4	3.4	—	—	—	—	—

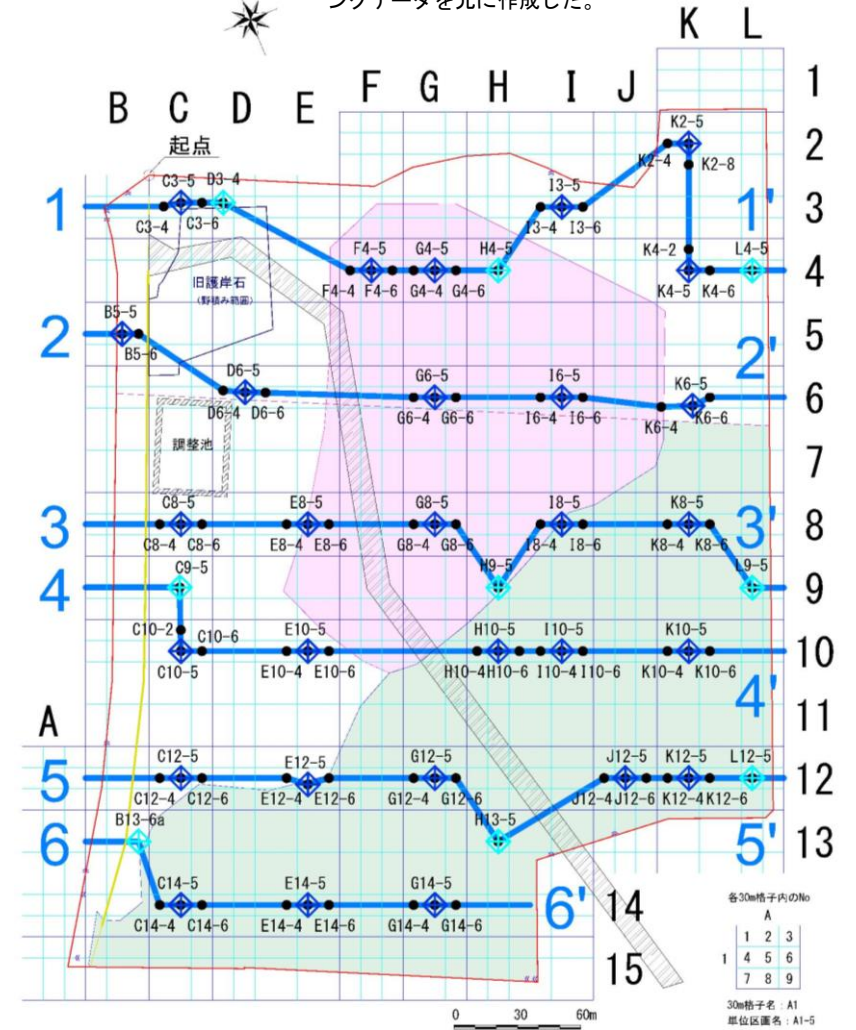
		油分										TPH				
		油臭					油膜									
		測定 検体数 (検体)	判定値1 以上検体数 (検体)	検出率 (%)	最大 判定値	最大濃度 の超過 倍率	測定 検体数 (検体)	判定値1 以上検体数 (検体)	検出率 (%)	最大 判定値	最大濃度 の超過 倍率	測定 検体数 (検体)	100mg/kg以上 検体数 (検体)	検出率 (%)	最大 濃度 (mg/L)	最大濃度 の超過 倍率
盛土	表層土壤調査	200	13	6.5	2	—	200	3	1.5	2	—	200	42	21.0	3100	—
	深度別土壤調査	155	55	35.5	3	—	155	30	19.4	2	—	155	71	45.8	3300	—
埋土	深度別土壤調査	185	33	17.8	4	—	185	13	7.0	2	—	185	21	11.4	6700	—
自然地盤	深度別土壤調査	150	0	0.0	0	—	150	0	0.0	0	—	150	0	0.0	—	—
地下水	地下水汚染調査	29	2	6.9	2	—	29	0	0.0	—	—	29	0	0.0	—	—

注) 本表は平成28年8月12日時点で分析完了しているデータ（出光興産(株)実施の分析データも含む）を用いて集計したものであり、途中経過である。出光興産(株)の深度別データについては、本集計に用いるため、近傍の本調査地点と同等程度の地層区分に分類した。また、集計では土壤ガス調査により確認されたベンゼン検出区画を対象とした深度別土壤調査データあるいは盛土を対象とした深度別土壤調査（追加実施）データをそれぞれの調査のデータとして重複して使用している。



地質断面位置

地質断面は、地質及び地下水調査地点（計9地点）、埋土における土壌汚染状況調査の観測井戸設置地点（29地点）、及びその周囲のボーリングデータを元に作成した。



【盛土（油処理土）】

第4回専門家会議資料の状況と同様に、山積み及び敷均し範囲の分布、埋土との層相の違いから層区分を行った。

【埋土（水面埋立て用材料）】

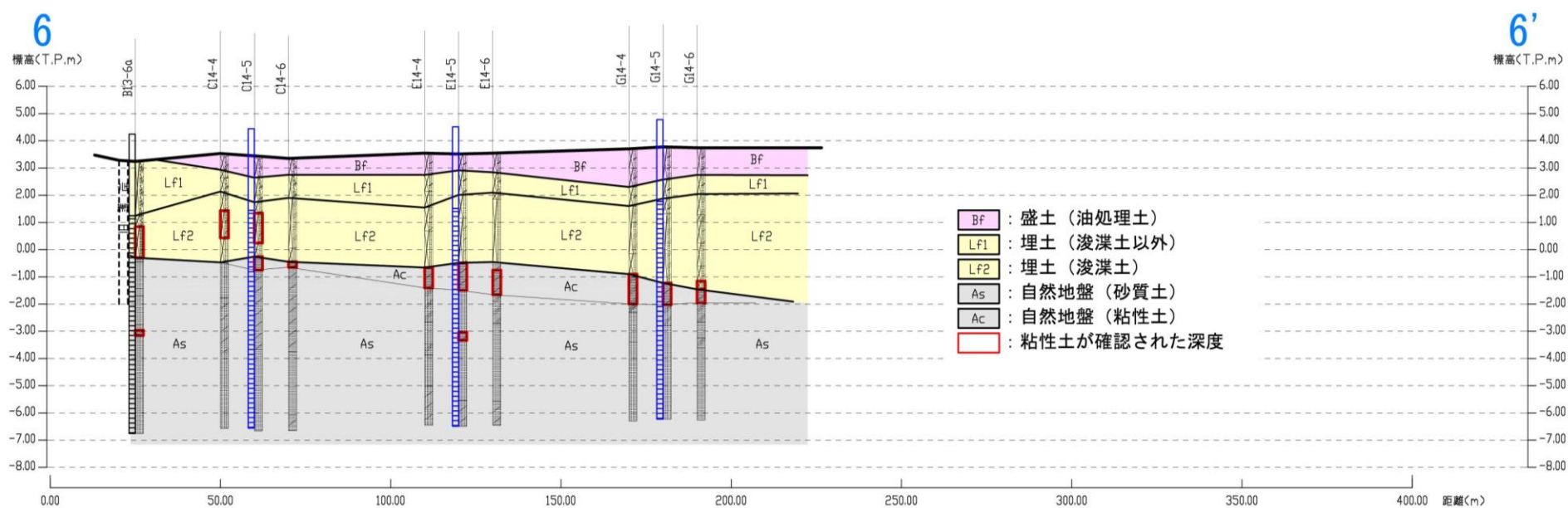
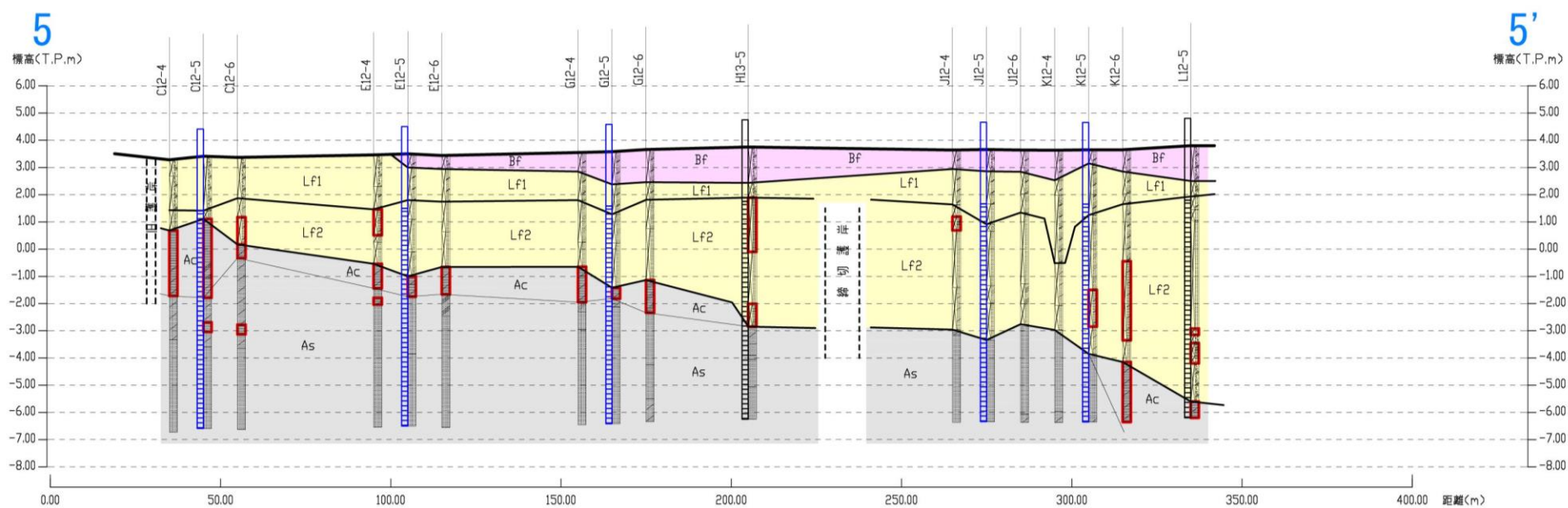
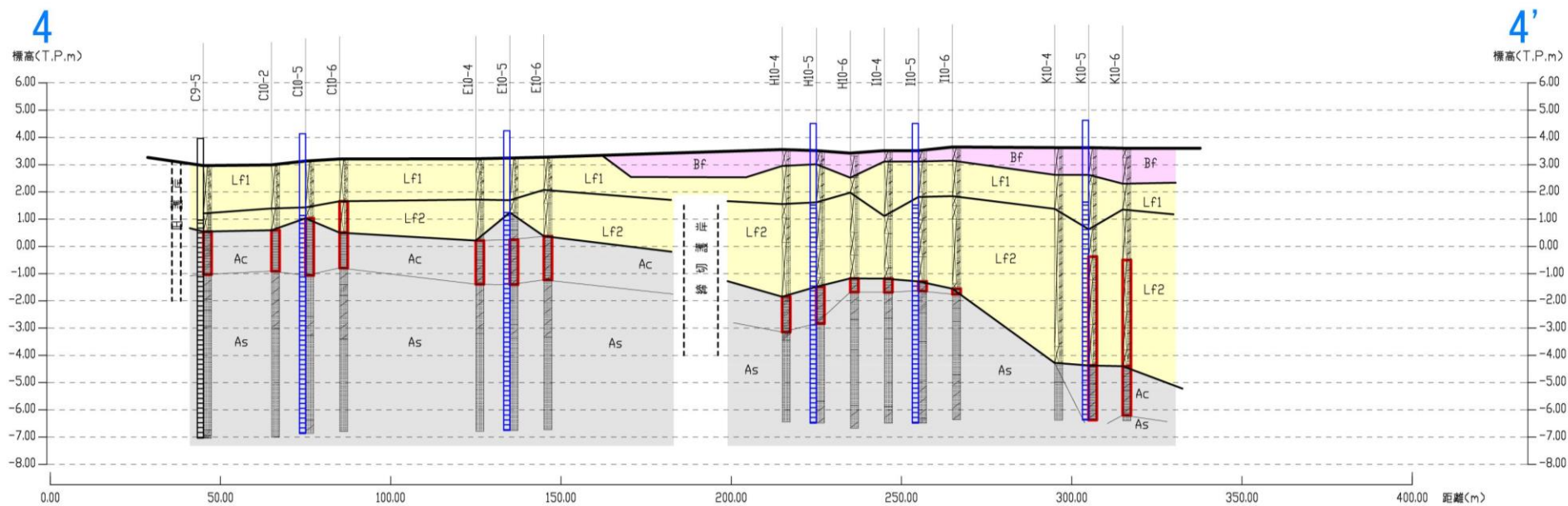
第4回専門家会議資料の状況から、新たに浚渫土主体（Lf2）とそれ以外の埋立て用材料（Lf1）※とで層区分を行った。それぞれ埋土の上部（Lf1）と下部（Lf2）の層順で、調査対象地の全域で一様に確認された。

※ 公有水面埋立免許願書（昭和55年3月、兵庫県姫路市）では、調査対象地を含む3工区の埋立てに使用する土砂は、①「-4m、-5m航路泊地の浚渫土砂」、②「埋立地の外周設備築造の際発生する床掘土砂」、③「公共残土」、④「購入山土」の4種とされ、この内、ボーリングコア観察の結果、浚渫土とは明らかに異なる性状を示し、③又は④と推察された埋土。

【自然地盤】

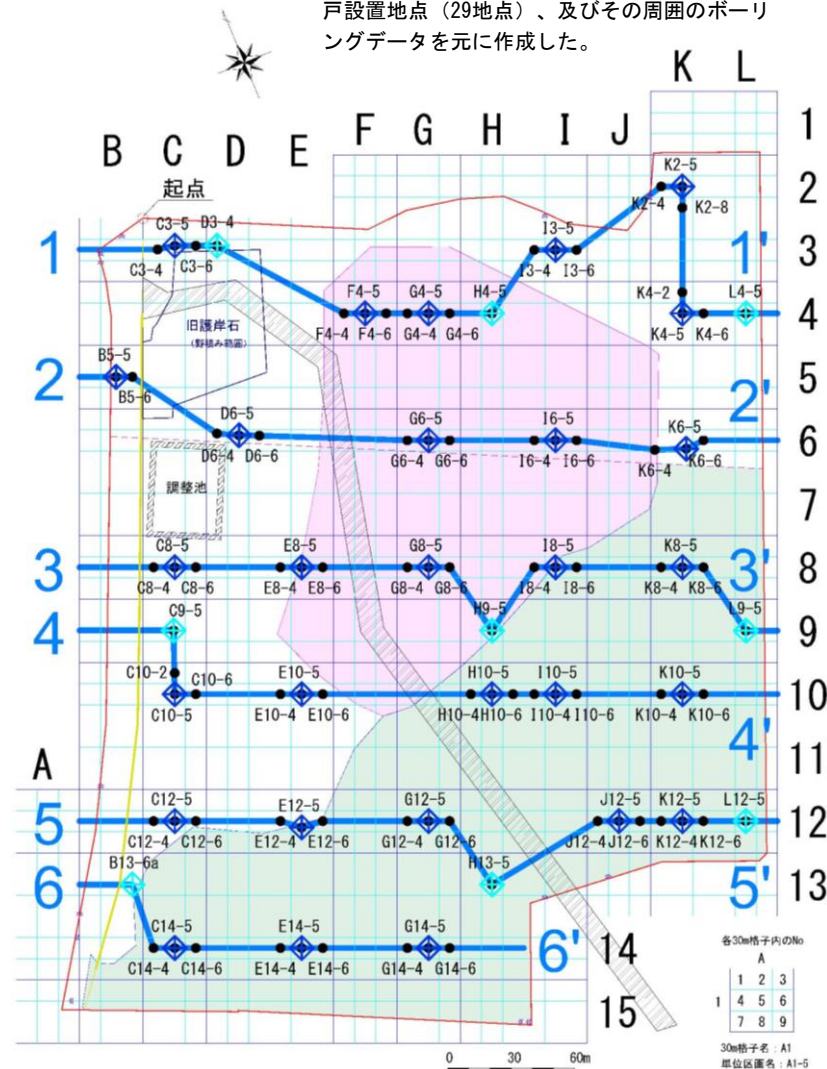
第4回専門家会議資料の状況と同様に、自然地盤中に粘性土層（Ac）が確認されたが、全域で平面的に連続して分布するような「難透水性の地層」は確認されなかった。

図1 地質断面と観測井戸設置状況



地質断面位置

地質断面は、地質及び地下水調査地点 (計9地点)、埋土における土壌汚染状況調査の観測井戸設置地点 (29地点)、及びその周囲のボーリングデータを元に作成した。



**【盛土 (油処理土)】**  
第4回専門家会議資料の状況と同様に、山積み及び敷均し範囲の分布、埋土との層相の違いから層区分を行った。

**【埋土 (水面埋立て用材料)】**  
第4回専門家会議資料の状況から、新たに浚渫土主体 (Lf2) とそれ以外の埋立て用材料 (Lf1) ※とで層区分を行った。それぞれ埋土の上部 (Lf1) と下部 (Lf2) の層順で、調査対象地の全域で一様に確認された。

※ 公有水面埋立免許願書 (昭和55年3月、兵庫県姫路市) では、調査対象地を含む3工区の埋立てに使用する土砂は、①「-4m、-5m航路泊地の浚渫土砂」、②「埋立地の外周設備築造の際発生する床掘り土砂」、③「公共残土」、④「購入山土」の4種とされ、この内、ボーリングコア観察の結果、浚渫土とは明らかに異なる性状を示し、③又は④と推察された埋土。

**【自然地盤】**  
第4回専門家会議資料の状況と同様に、自然地盤中に粘性土層 (Ac) が確認されたが、全域で平面的に連続して分布するような「難透水性の地層」は確認されなかった。

図2 地質断面と観測井戸設置状況

表4 概算土量の算出結果

	本調査結果に基づく 算出結果 (m <sup>3</sup> )	
	盛土	埋土
盛土 (油処理土山積み)	23,570	86,504
盛土 (油処理土山積み・敷均し)	11,602	72,964
盛土 (油処理土敷均し)	35,602	193,538
合計	70,774	353,006

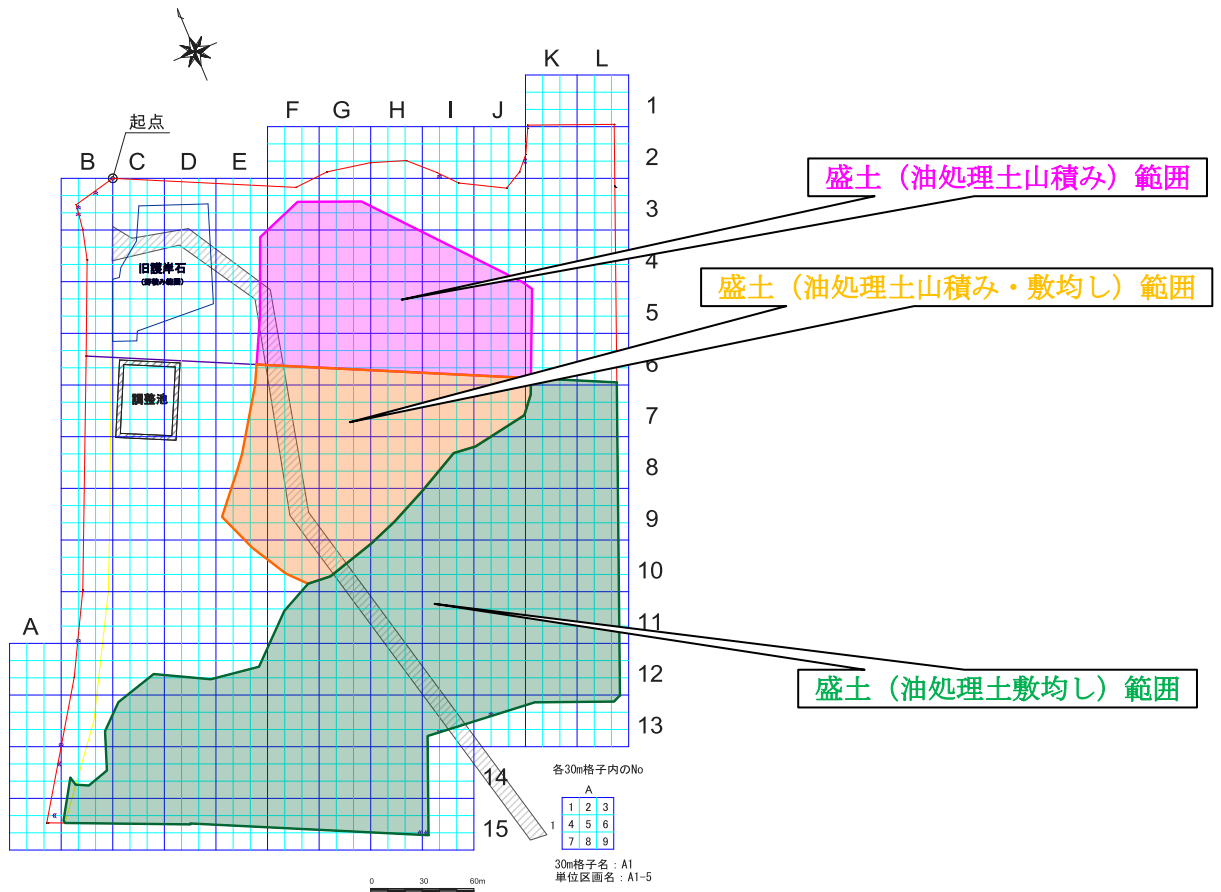
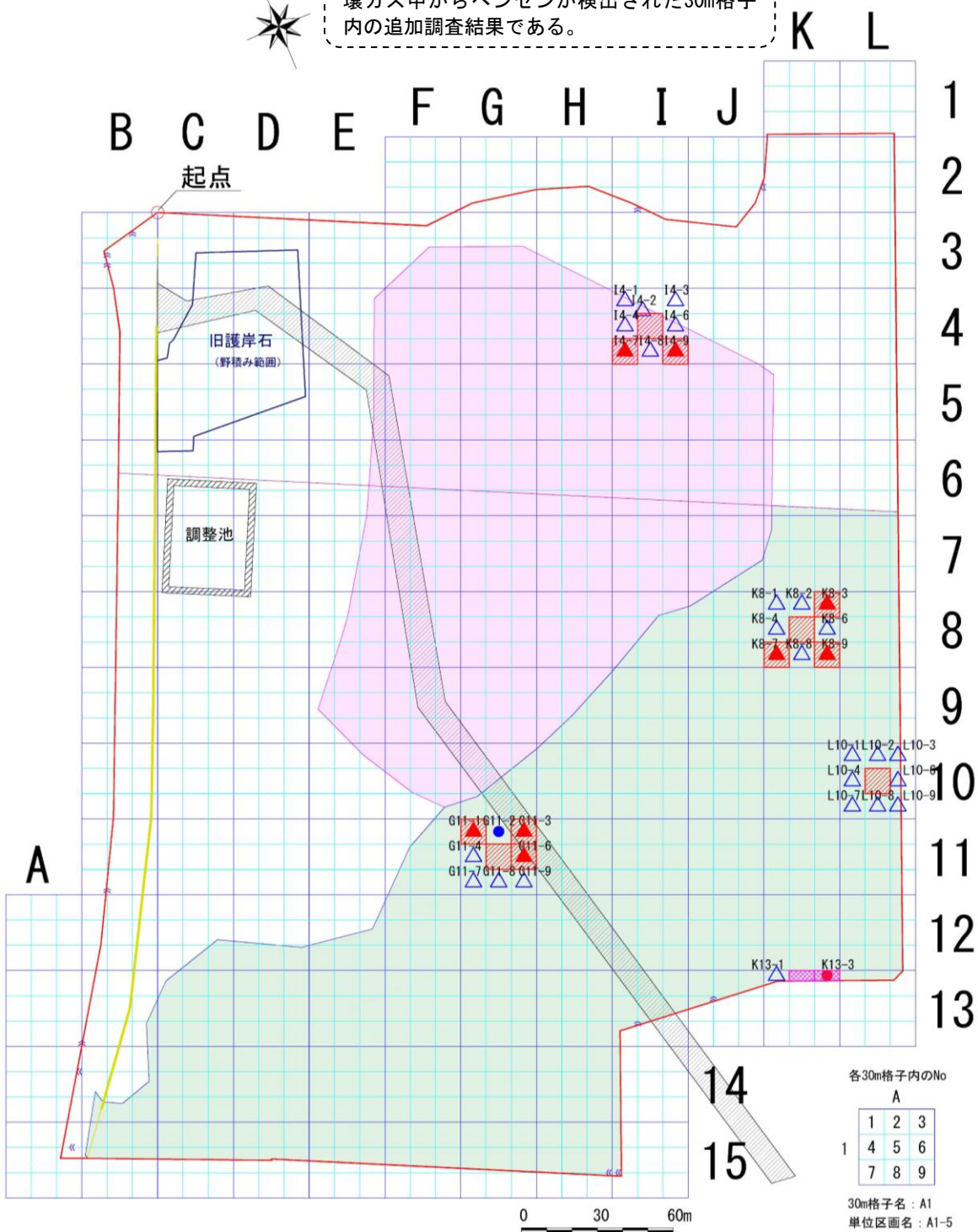


図3 盛土範囲の区分

本調査結果は、第4回専門家会議で報告した土  
 壌ガス中からベンゼンが検出された30m格子  
 内の追加調査結果である。



凡 例

- : 対象地
- : 30m格子
- : 単位区画
- ◀◀ : 区画の統合
- (紫) : 油処理土 (山積み)
- (緑) : 油処理土 (敷均し)
- ▨ (斜線) : 締切護岸
- (黄) : 旧護岸線
- △ (青) : 土壌ガス濃度 定量下限値 (0.05volppm) 未満
- △ (赤) : 土壌ガス濃度 定量下限値 (0.05volppm) 以上
- (青) : 宙水濃度 定量下限値 (0.0002mg/L) 未満
- (赤) : 宙水濃度 地下水基準 (0.01mg/L) 超過
- ▨ (赤斜線) : 土壌ガスからベンゼンが検出された区画
- ▨ (紫斜線) : 宙水濃度がベンゼンの地下水基準を上回った区画

図4 ベンゼンを対象とした追加土壌ガス調査結果



表5 盛土、埋土、自然地盤における第一種特定有害物質及びその他VOCsの項目別検出状況総括表

区分		第一種特定有害物質 土壌溶出量									
		Bz									
		土壌ガス調査結果に基づくボーリング調査		深度別土壌調査結果に基づくボーリング調査		埋土		自然		地下水面付近	
		盛土	盛土	埋土	自然	埋土	自然	埋土	自然	埋土	自然
		検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合
第二溶出量基準超過	100倍<測定値≤1,000倍	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	10倍<測定値≤100倍	0	0.0%	0	0.0%	3	0.8%	0	0.0%	1	0.7%
土壌溶出量基準超過	1倍<測定値≤10倍	1	0.8%	1	2.2%	8	2.0%	0	0.0%	0	0.0%
基準適合	測定値≥定量下限値	18	14.8%	9	19.6%	48	12.0%	4	1.5%	18	12.4%
	測定値<定量下限値	103	84.4%	36	78.3%	340	85.2%	266	98.5%	126	86.9%
合計		122	100.0%	46	100.0%	399	100.0%	270	100.0%	145	100.0%
最大値 (mg/L)		0.012 (J7-5)		0.012 (J7)		0.41 (H10-4)		0.0052 (K2-5)		0.41 (H10-4)	
定量下限値(mg/L)		0.0002 <sup>備考1</sup>									
土壌溶出量基準		0.01以下									
第二溶出量基準		0.1以下									

表中の記号	物質名
Bz	ベンゼン
Pb	鉛及びその化合物
As	砒素及びその化合物
F	ふっ素及びその化合物
B	ほう素及びその化合物

備考1.出光興産㈱実施分の定量下限値は0.001mg/Lである。

2. 最大値の()内は、最大値を示した地点又は格子名を示す。

区分		第二種特定有害物質 土壌溶出量																	
		Pb				As				F									
		盛土		埋土		自然		盛土		埋土		自然		盛土		埋土		自然	
		検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合
第二溶出量基準超過	100倍<測定値≤1,000倍	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	30倍<測定値≤100倍	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
土壌溶出量基準超過	10倍<測定値≤30倍	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	18	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	1倍<測定値≤10倍	0	0.0%	17	9.3%	32	19.2%	77	66.4%	132	65.7%	128	67.7%	5	4.3%	84	46.7%	29	17.4%
基準適合	定量下限値≤測定値≤1倍	5	4.3%	95	52.2%	97	58.1%	39	33.6%	67	33.3%	42	22.2%	110	94.0%	96	53.3%	138	82.6%
	測定値<定量下限値	110	95.7%	70	38.5%	38	22.8%	0	0.0%	2	1.0%	1	0.5%	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
合計		115	100.0%	182	100.0%	167	100.0%	116	100.0%	201	100.0%	189	100.0%	117	100.0%	180	100.0%	167	100.0%
最大値 (mg/L)		0.005 (J12)		0.027 (C14)		0.053 (E14)		0.054 (I4)		0.097 (K12)		0.15 (C8)		2.1 (K13)		5.7 (C8)		2.4 (C8)	
定量下限値(mg/L)		0.001				0.001						0.08							
土壌溶出量基準(mg/L)		0.01以下				0.01以下						0.8以下							
第二溶出量基準(mg/L)		0.3以下				0.3以下						24以下							

備考1. 最大値の()内は、最大値を示した地点又は格子名を示す。

注) 本表は平成28年8月12日時点で分析完了しているデータ(出光興産㈱実施の分析データも含む)を用いて集計したものであり、途中経過である。出光興産㈱の深度別データについては、本集計に用いるため、近傍の本調査地点と同等程度の地層区分に分類した。なお、本表は分析試料を地層区分(盛土、埋土、自然地盤)毎に集計したものであるため、複数の調査目的を兼ねた共通の分析データをそれぞれの調査で用いて調査毎に集計した別紙3の表3の値とは一致していない部分がある。

区分		第二種特定有害物質 土壌含有量					
		Pb					
		盛土		埋土		自然	
		検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合
土壌含有量基準超過	100倍<測定値≤1,000倍	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	10倍<測定値≤100倍	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	1倍<測定値≤10倍	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%
基準適合	定量下限値測定値≥1倍	115	100.0%	137	75.3%	83	49.7%
	測定値<定量下限値	0	0.0%	45	24.7%	83	49.7%
合計		115	100.0%	182	100.0%	167	100.0%
最大値 (mg/kg)		85 (E10)		98 (K4)		220 (F4)	
定量下限値(mg/kg)		15					
土壌含有量基準(mg/kg)		150以下					

備考1. 最大値の()内は、最大値を示した地点又は格子名を示す。

別紙 9

表6 盛土、埋土、自然地盤における油分の項目別検出状況総括表

区分	油臭						油膜					
	盛土		埋土		自然		盛土		埋土		自然	
	検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合
判定値=5	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—	—	—	—	—	—
判定値=4	0	0.0%	4	2.2%	0	0.0%	—	—	—	—	—	—
判定値=3	3	0.8%	3	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
判定値=2	57	16.1%	12	6.5%	0	0.0%	10	2.8%	7	3.8%	0	0.0%
判定値=1	8	2.3%	14	7.6%	0	0.0%	23	6.5%	6	3.2%	0	0.0%
判定値=0	287	80.8%	152	82.2%	150	100.0%	322	90.7%	172	93.0%	150	100.0%
合計	355	100.0%	185	100.0%	150	100.0%	355	100.0%	185	100.0%	150	100.0%
最大値	3		4		0		2		2		0	

区分	TPH					
	盛土		埋土		自然	
	C6-C44		C6-C44		C6-C44	
	検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合
測定値 > 10,000	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5,000 < 測定値 ≤ 10,000	0	0.0%	2	1.1%	0	0.0%
1,000 < 測定値 ≤ 5,000	34	9.6%	9	4.9%	0	0.0%
定量下限値 ≤ 測定値 < 1,000	79	22.3%	10	5.4%	0	0.0%
測定値 < 定量下限値	242	68.2%	164	88.6%	150	100.0%
合計	355	100.0%	185	100.0%	150	100.0%
最大値 (mg/kg)	3,300 (J4-8)		6,700 (H4-5)		N.D. (全地点)	
定量下限値 (mg/kg)	100		100		100	

備考1. N.D.とは定量下限値未満を示す。

2. 最大値の()内は、最大値を示した地点を示す。

油臭の判定基準

0	無臭
1	やっと感知できるにおい (検知閾値濃度)
2	何のにおいであるかわかる弱いにおい (認知閾値濃度)
3	らくに感知できるにおい
4	強いにおい
5	強烈なにおい

油膜の判定基準

0	油膜がみられない
1	膜状のものがかるうじて識別できる
2	モノカラーの油膜が識別できる
3	虹色の油膜が明瞭に識別できる

表7 地下水の第一種特定有害物質及びその他VOCsの項目別検出状況総括表

区分		第一種特定有害物質 地下水							
		Bz		As		F		B	
		検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合	検体数	割合
地下水基準超過	100倍<測定値≤1,000倍	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	10倍<測定値≤100倍	1	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	1倍<測定値≤10倍	1	3.4%	8	27.6%	25	86.2%	7	24.1%
基準適合	定量下限値≤測定値≤1倍	2	6.9%	20	69.0%	4	13.8%	22	75.9%
	測定値<定量下限値	25	86.2%	1	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
合計		29	100.0%	29	100.0%	29	100.0%	29	100.0%
最大値 (mg/L)		0.11 (G4-5)		0.041 (K12-5)		3.9 (※2)		3.4 (C12-5)	
定量下限値 (mg/L)		0.0002		0.001		0.08		0.01	
地下水基準 (mg/L)		0.01以下		0.01以下		0.8以下		1以下	

備考1. N.D.とは定量下限値未満を示す。

- ※1は「水銀が0.0005以下、かつ、アルキル水銀が検出されないこと」を示す。
- 最大値の()内は、最大値を示した地点を示す。
- ※2は、最大値を示した地点がE10-5,E12-5,G8-5の3地点であることを示す。

表中の記号	物質名
Bz	ベンゼン
As	砒素及びその化合物
F	ふっ素及びその化合物
B	ほう素及びその化合物

表8 地下水の油分の項目別検出状況総括表

区分	TPH		油臭		油膜		
	C6-C44						
	地点数	割合	地点数	割合	地点数	割合	
測定値>10,000	0	0.0%	判定値=5	0	0.0%	—	—
5,000<測定値≤10,000	0	0.0%	判定値=4	0	0.0%	—	—
1,000<測定値≤5,000	0	0.0%	判定値=3	0	0.0%	0	0.0%
定量下限値≤測定値<1,000	0	0.0%	判定値=2	2	6.9%	0	0.0%
測定値<定量下限値	29	100.0%	判定値=1	0	0.0%	0	0.0%
合計	29	100.0%	判定値=0	27	93.1%	29	100.0%
最大値 (mg/kg)	N.D. (全地点)		合計	29	100.0%	29	0.0%
定量下限値 (mg/kg)	10		最大値	2		0	

備考1. N.D.とは定量下限値未満を示す。

2. 最大値の()内は、最大値を示した地点を示す。

油臭の判定基準

0	無臭
1	やっと感知できるにおい(検知閾値濃度)
2	何のにおいであるかわかる弱いにおい(認知閾値濃度)
3	らくに感知できるにおい
4	強いにおい
5	強烈なにおい

油膜の判定基準

0	油膜がみられない
1	膜状のものがかろうじて識別できる
2	モノカラーの油膜が識別できる
3	虹色の油膜が明瞭に識別できる